



Republic of  
Ghana  
04

# 異文化理解「違いを認め合うということ」

重森 美由姫

広島市立宇品中学校

●実践教科等/総合的な学習の時間  
●時間数/8時間

●対象学年/中学1年生  
●対象人数/205名



「食」という身近なものから違いを認め合うということを伝えようという発想が素晴らしい。多面的かつ文脈的に異文化理解のプログラムが立てられている。

## ❖カリキュラム

- 【実践の目的】
- 世界には多様な文化があり、それぞれの土地にはその土地の風土や環境、歴史や宗教などが深く関係していることを知る。
  - 知らず知らずのうちに、自分の中にできている「思いこみ」「偏見」「差別感」「固定観念」に気づく。
  - 自分と異なる価値観を拒否するのではなく、お互いの違いを認め、尊重しようとする力を育む。

## ❖授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 ・ 2	文化が違っていてどうということ? (教室)	「レヌカの学び」 日本とネパールの文化を比較する中で、自分の中にある課題に気づく	・教材「レヌカの学び」
		「日本の常識＝世界の常識!？」 日本で当たり前だと思っていることが世界では驚かれる理由を考える 「日本だって異文化だらけ」 同じ国の中でも、自分の習慣や好みは必ずしも人とは一致しないことを知る	・ワークシート(1) ・ワークシート(2)
3 ・ 4	「食」から考える異文化 (体育館・教室)	「ガーナってどんな国」(フォトランゲージ) ガーナと日本の生活や文化を比較する 「どんな食べ方だっておいしい」 フーフーを試食したり、三大食法を体験する	・写真 ・六品の料理 ・フーフー
		「お隣の国とくらべてみよう」 イラストを見て、韓国でマナー違反だと思われることを探す	・イラスト
5 ・ 6	異文化の中に入ったら・・・ (教室)	「バファバファ」 2クラスずつのグループに分け、それぞれの文化を持つα国、β国に分かれて、異文化交流体験をする	・カード
7 ・ 8	お互いを尊重し、共に生きるために (教室)	「異文化の中で暮らす」「海外の友達がやってきた!」 自分がホームステイしたときと、海外から自分の家また学級に友達が来たときを想定して、お互いを尊重し合える方法を考える	・ワークシート
		「ここは日本なのだから」 異文化の中に飛び込んだ1人の中学生の作文を読んで、異文化接触の生む摩擦を知った上で、お互いを尊重しようとする方法を考える	・資料(川崎市立中学校の生徒作文)
		今回の異文化理解学習全体のまとめを行う	・資料(ユネスコ憲章前文)

※関連…(国語科) 国際理解学習のまとめとして、600字の感想文を書く

## ◆授業の詳細

### 1・2 時 限 目 文化が違うってどういうこと?

#### A「レヌカの学び」

- ・知らず知らずのうちに、自分の中にできている「思い込み」「偏見」「差別感」「固定観念」に気づく。
- ・異文化理解は、その自分の中にある思い込みに気づくことから始まることを実感する。

「レヌカ」とは、ネパール人女性の名前。25歳の時に研修のために来日し、日本で暮らしていく中で、大きく変化していく彼女の考え方を通して、異文化を理解することの意味を考える。レヌカがネパールにいた時の考え方や、日本の生活を経験した後の考え方が9項目ずつ書かれた18枚のカードを使う。グループで話し合わせ、カードを9つずつに分ける。カードは正しく分けられれば、裏返すとネパールと日本の風景になる。

#### 〈所感〉

生徒は、迷いながらも活発に意見を交わしていた。6クラス通しても、全問正解したグループはいなかった。ネパールのことだと思っていたことが、実は日本のことだったり、またその反対もあったり、なぜ間違えたのだろう?と考えることで、自分たちの「思い込み」に気づくことができた。ネパールの文化を学びながら、日本の文化についても再認識できる活動となった。



1時限目 ワーク「レヌカの学び」



2時限目「わたしの文化シート」

#### B「日本の常識＝世界の常識!？」

- ・日本で常識と考えられていることが、世界の常識とは限らないことを知る。

日本で常識となっていることが、なぜ世界では驚かれるのか、また日本の常識に対して驚く国や地域では、どのような習慣がそこでの常識なのかを考える。次に、自分が当たり前だと思っている生活習慣を否定されたり、拒否されたりしたらどのような気持ちになるのかを考える。

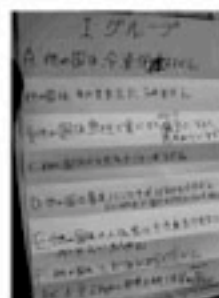
#### 〈所感〉

日本で常識とされていることを、なぜそうなのかを改めて考えたことがある生徒はほとんどいない。しかし、日本と世界の違いを知ることは興味深かったようだ。また、日本は水や紙を大量に使っているということを知り、節約する必要があると感じた生徒もいた。日本で生活しているからと言って、日本のことを全て知っているわけではないということに気づき、世界という視点から日本を見ることの必要性を感じさせたい。

#### C「日本だって異文化だらけ」

- ・日本の中にも多様な文化があることを知る。
- ・文化が生まれる背景を考える。

ワークシートの日本での生活に関することと個人の趣味・嗜好に関することの質問に「YES or NO」で各自が答える。自由に動き回り、自分と全く同じ習慣と嗜好を持つ人を探す。



日本の常識＝世界の常識!?



わたしの文化シート

#### 〈所感〉

生徒にとって、自分と全く同じ習慣・嗜好を持つ人がいないということは意外だったようだ。自分と違うと、思わず相手を否定する言葉が出ることに気づき、知らず知らず相手を受け入れていないことを知ることができた。このことが最終的には異文化理解の障害になることに気づかせたい。

### 3・4 時 限 目 「食」から考える異文化

4・5時間目に時間を設定し、昼食時間も利用した。4時間目は体育館で一斉授業を行い、その後教室に移動し、昼食を食べ、5時間目は各教室で行った。これは実際に食体験をさせるための時間設定である。

#### A「世界の国をどれだけ知ってる?」…ブレインストーミング

- ・世界にはさまざまな国があることを確認する。
  - ・自由に意見を出させることで、全員が参加しやすい雰囲気を作る。
- 班ごとに世界の国を思いつく限り、1分間でシートに書かせる。

#### 〈所感〉

これからガーナのことを紹介するにあたり、ガーナの名前が出れば導入しやすい。結果としてはヨーロッパやアメリカ大陸、アジアの国が多く、アフリカの存在は薄い。しかし、少数だがガーナを挙げた班もあった。ガーナについて学習していくと前置きをしたところで、アフリカとヨーロッパが中心の世界地図を示し、日本からガーナへの距離を実感させる。



世界の国をどれだけ知ってる?

田中 紀子  
報告書①

古田 匠子  
報告書②

村木 啓司  
報告書③

重森 美由姫  
報告書④

黒明 盛一郎  
報告書⑤

山崎 知代子  
報告書⑥

祝迫 直子  
報告書⑦

河毛 樹  
報告書⑧

森 泰三  
報告書⑨

安部 一実  
報告書⑩

参考資料

## B「ガーナってどんな国？」…フォトランゲージ

・ガーナの写真を教材に、日本とガーナの生活の違いを知らせる。

・ガーナ料理(フーフー)の手食を紹介する。

ガーナと言えば「チョコレート」と答える生徒がほとんどで、アフリカのどこにあるのかもよく知らない生徒が多い。そこで写真を使って、ガーナの町や人々の生活をイメージしやすくする。視覚的な情報以外は与えず、気づいたことを自由に発言させる。

### 1 公衆トイレ

「これは何だと思いませんか?」と問いかけると、意外にも勘がよく、トイレという答えがすぐに出た。ガーナではトイレトペーパーを流さず、備え付けのゴミ箱に捨てること。しかし、それはガーナだけではなく、他の国でも行われていることを話す。また、水の貴重さにも触れた。生活の中での重要度からも、トイレの違いの与えるインパクトは大きく、ほとんどの生徒が驚いていた。



公衆トイレ1



公衆トイレ2

### 2 頭に物を載せて運ぶ

水の入ったバケツを用意し、生徒に実際に運ばせる。生徒は両手で持って運ぶ。しかし、そのように運ぶ理由を問うが、答えは出ない。次に、ガーナではどうやって運ぶのかをたずねると、すぐに「頭に載せて運ぶ」という答えが返ってきた。ガーナでは頭に載せて運ぶことが一般的であることを紹介する。



頭に物を載せて運ぶ1



頭に物を載せて運ぶ2

実際に頭にバケツを載せて運んでみたいという生徒に運ばせた。生徒はゲーム感覚で楽しんでた。

次に、教室の生徒机を用意し、教員の一人が実際に頭に載せて運んでみせる。ここで、自分はどうやって物を運ぶのかを想像させながら、なぜ、ガーナでは頭に載せて運ぶのかを考えさせる。頭に載せて運ぶのは、国際的には多く見られることで、重い物でも楽に運べる合理的な方法であり、実は日本にも昔からあることだと説明し、「大原女」の写真を見せる。遠く離れた国であっても、文化には共通する部分があることに気づかせる。



頭にバケツを載せる



机を運ぶ

### 3 お風呂

子ども用のジョウロを見せる。このジョウロとバケツを使って、ガーナでボランティアとして働く日本人が何をするかを考えさせる。「お風呂に使う」という答えはすぐに出た。このジョウロとバケツの水半分で髪も体も十分洗えること。お湯は出ないこと。実際の青年海外協力隊員宅のお風呂場の様子を見せたり、雨水を溜めて使うということから、水は貴重であることをここでも押さえる。



隊員のお風呂場



雨水溜め

### 4 ガーナ料理フーフーで使う杓と臼

日本でも今日ではあまり馴染みがないのか、これが何であるかについては結局答えは出てこなかった。ガーナ料理のフーフーを作る時に使う杓と臼であることを教え、作り方の写真を見せる。



杓と臼



フーフーの作り方1



フーフーの作り方2

次に、実際にフーフーの写真を示し、気づくことを自由に発言させる。「おしるこみたい」「スプーンやフォークがない」「手で食べている」などが挙がった。



フーフー

フーフーという料理はスプーンやフォークなどは使わず、手で食べる。左手は使わず右手のみで食べるのがマナーであることを話し、手食について紹介する。ここで手食にマイナスイメージを持たせない指導が必要だ。

### 〈所感〉

ほとんどの生徒がガーナについての予備知識はなく、一つ一つの写真に興味を示していた。トイレやお風呂、

食べ物など、生活に密接に関係する写真だったので、生徒はより自分に近づけて考え、日本の生活との違いを感じることができた。手食について知らなかった生徒も多く、特に印象に残ったようだ。日本の常識が、世界での常識とは限らないことを再確認し、さまざまな国へ目を向けさせ、興味を深めさせたい。

### C「どんな食べ方だっておいしい」…実際に体験する

「食」を切り口にして、自分には違和感のある文化にもそれぞれの文化や合理性があること、文化に優劣はないことを知る。

- ・世界にはどんな食べ方があるかを考えさせる。「手食文化」「箸食文化」「ナイフ・フォーク・スプーン食文化」
- ・三つの食法があることを話し、普段と違う食べ方に挑戦して、異文化を体験してみる。

最初に担任教員6人がステージに上がり、ご飯と味噌汁をスプーンで、カレーライスを手で、スパゲティを手で、ハンバーグを手で、肉まんをナイフとフォークで、フーフーを手で食べて、その感想を一言ずつ述べる。フーフーは、代わりに日本のお餅を用いるなど、日本で簡単に手に入れられる食材を使った。

- ・昼食時間で、希望する生徒は実際に給食やお弁当を普段とは違う食べ方で食べてみる。また、事前に作っておいたフーフーを各クラスに配り、希望者は試食する。



世界にはどんな食べ方があるか

- ・それぞれの食べ方の長所を考えさせる。手食文化は食べ物の温度がわかりやすいということ、箸食文化は丸いものでもつまみやすいということ、ナイフ・フォーク・スプーン食文化は上品に見えるというような意見が出てきた。
- ・三大食法文化圏の特徴や、文化的背景を説明し、実は手食には厳しいマナーがあることを話す。

#### 生徒の感想より

ガーナではなんでも頭にのせて運ぶところも違うのでびっくりしました。給食の時間のフーフーはちょっと辛かったけど、おいしかったです。

日本では、食事の前に手を洗わない人が多くて、当たり前になっているけど、ガーナの人達は、みんなきちんと手を洗って、清潔感があっていいなと思いました。

日本では考えられない手で食べるというのはガーナではありえたりすることがわかった。

それぞれ違いがあるということがわかったし、その違いをわかりあってどこの国でもその国のルールを守っていてもっと日本と外国の交流があればいいなと思いました。

日本はとても水が豊かだということに気づいた。だけど、日本に水があっても、ちゃんと、大切に使わなければなと思いました。

ガーナの人にしてみれば、棒のようなものを使ってよく食べられるなあ…と思うんだと思いました。ガーナと日本の人は味覚も違うのかなあと思いました。

#### 〈所感〉

手食など普段とは違う食べ方を担任の先生も体験したということで生徒には安心感を与えた。パンや果物など手でつかんで食べることはあるが、ご飯を手で食べることには抵抗感を示す生徒はいる。しかし、手食が実は世界で一番多いことを知り、見方が変わったようだ。生徒が持つであろう固定観念や偏見を予想し、それらに揺さぶりをかけることを常に意識して、取り組む必要がある。

### D「お隣の国とくらべてみよう」

- ・文化的に近い国、民族とも違いはたくさんあることを知る。

「日本の文化とよく似た国はどこだろう？」と問う。すぐに韓国の名前が出てくる。続けて「どんな共通点があるだろう？」とたずね、考えさせる。日本とよく似ていると思っている韓国だが、実は相違点も多くあるということをイラストを使って紹介する。韓国のレストランで食事をする場面が描かれたイラストから、マナー違反を5つ見つけさせる。

#### 〈所感〉

自分たちとあまり変わらないと思っていた韓国でも多くの相違点があることを知り、文化の違いがトラブルにもつながることに気づいた生徒が多かった。授業で学んだことが実生活で生かされることが大事だ。

## 5・6 時 異文化の中に入ったら… (バファバファ)

自分が異文化に入ったとき、どんな気持ちになり、何を感じるのかを実際に体験する。

2クラスずつペアとなり、 $\alpha$ 国 $\beta$ 国に分かれて、独自の文化でカードゲームをする。相手国に数人ずつ訪問することで、異文化に入ったとき、どんな気持ちになるのかを体験する。

	$\alpha$ 国	$\beta$ 国
目的	楽しむ	カードごとに色をそろえる
雰囲気	明るい	競争的
カード交換	$\alpha$ じゃんけんによる賭	一定のルールによる交換
カードの枚数	女王様からいくらでももらえる	常に一定
言葉	日本語を話し、お世辞や笑いが絶えない	$\beta$ 国語を話し、カード交換時以外は無口

田中 紀子  
報告書①

古野 匠子  
報告書②

村木 啓司  
報告書③

重森 美由姫  
報告書④

黒明 聖一郎  
報告書⑤

山崎 知代子  
報告書⑥

祝迫 直子  
報告書⑦

河毛 樹  
報告書⑧

森 泰三  
報告書⑨

安部 一夫  
報告書⑩

参考資料